



きざき

令和3年9月10日

令和3年度 第4号

題字：寺尾 貞男 氏（笹山）

愛され続ける

校長 増井 一久

「テレビアニメ『サザエさん』の磯野波平さんは何歳に見えますか？」

先日、校長室の掃除に来ている4年生の2人に上のことを尋ねました。

I.Iさん、K.Rさんのどちらも「80歳くらい」と答えました。ところで、皆さんには波平さんがいくつに見えますか？

サザエさんを研究する方々が出している資料によると、磯野波平さんの年齢設定は54歳なのだそうです。皆さんは波平さんの年齢を聞き、どんな印象を持ちましたか？

- ①「えっ、そんなに若い。もっと年上に見える。」
- ②「えっ、そんなに年取ってるの。もっと若く見える。」
- ③「まあ、見た目どおりかな。」

おそらく皆さんは①と答える方が多いのではないかと推察します。

作者の長谷川町子氏が「サザエさん」の4コマ漫画を連載し始めたのは、1946年（昭和21年）4月です。波平さんは当時の50代半ばの男性の平均的な容姿として描かれたのではないかと思います。それから75年。今は当時に比べ日本人の平均寿命が大幅に延びました。ちなみに2020年の日本人の平均寿命は、女性が87.74歳で世界1位、男性が81.64歳で世界2位です。今後もさらに延びるとの予想が厚生労働省から出ていました。

もう少し波平さんについて述べます。1946年時点で54歳の波平さん。ならば、生年は1892年（明治25年）、今年129歳です。しかし、波平さんは登場以来75年間、年を取らず54歳のままです。これは波平さんだけでなく、サザエさんに登場する多くのキャラクターも同様です。

私は「年を取らない」という設定が、サザエさんが多くの皆さんに親しまれ、愛され続ける秘密ではないかと思います。言い方を変えれば「戦略」です。

キャラクターが年を取らないという戦略は、サザエさんだけでなく、「ちびまる子ちゃん」、「ドラえもん」、「クレヨンしんちゃん」、「名探偵コナン」等のアニメでも使われ、いずれも長年にわたり多くの人に愛され続けています。

木崎小学校も地域の皆様から愛され続ける学校でありたいと強く思います。だからといって木崎小学校に関わる人々が「年を取らない」ということは不可能です。ですから、学校は時代のニーズに合わせた戦略的な学校経営方針を途絶えることなく皆様にお示ししなければなりません。

今号の「きざき」は、今年度の学校運営について、学校の自己評価や保護者様から頂戴したご意見等をまとめました。お読みいただくと共に、引き続き、皆様から当校へのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

学校評価中間報告

「保護者意識調査」にご協力いただきありがとうございました。4月からの教育活動を振り返りました。その結果をお知らせします。

1【資質・能力&授業力】

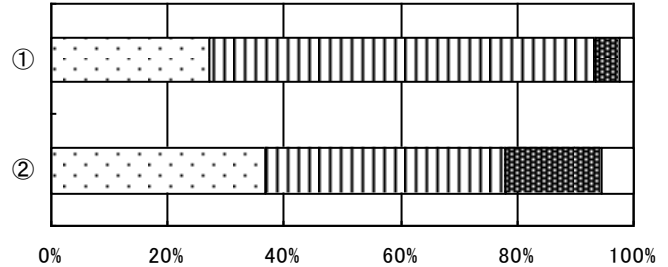
自分で課題を見付け、主体的・協働的に学ぶことについて重点的に取り組んでいます。

グラフの見方 そう思う まあそう思う あまり思わない そう思わない
「そう思う」と「まあそう思う」を肯定的評価として捉えています。

<保護者意識調査>

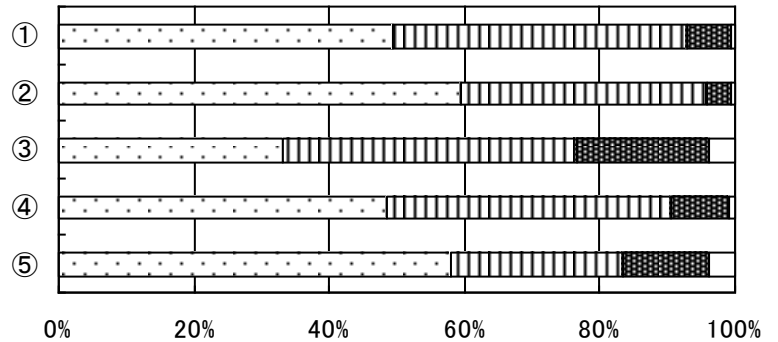
() 内は、前年度比 (△プラス・▼マイナス)

項目	肯定的評価の割合
① 学校の勉強の内容が分かっている。	88.2% (△3.6%)
② 「10分×学年」の家庭学習の声掛けや確認をしている。	78.1% (△4.9%)



<子どもアンケート>

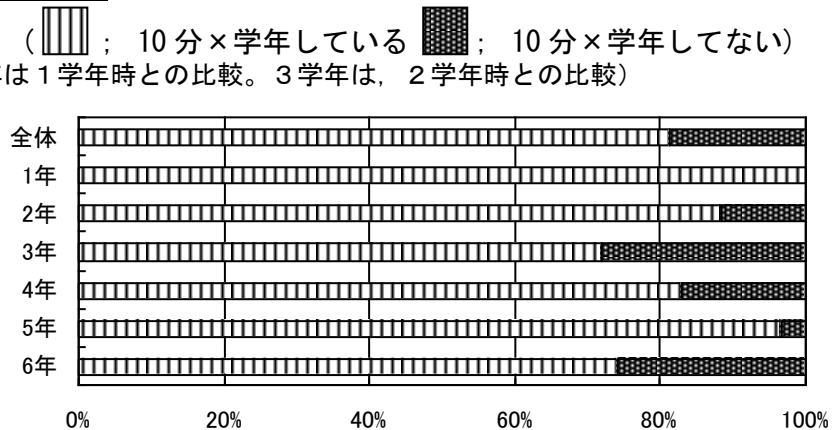
項目	肯定的評価の割合
① 国語の勉強が分かる。	93.0% (▼1.4%)
② 算数の勉強が分かる。	89.8% (▼0.1%)
③ 授業中、論理的に考え表現するためのスキルを使って、学習内容がよく分かったと感じている。	77.1% (▼11.9%)
④ 生活科・総合的な学習の時間で調べたいことを見付けて学習している。	90.5% (▼2.7%)
⑤ 自分で計画を立てて、「学年×10分」の家庭学習をしている。	81.3% (▼7%)



○家での1日の勉強時間について (; 10分×学年している ; 10分×学年してない)

() 内は、前年度比 (例：2学年は1学年時との比較。3学年は、2学年時との比較)

学年	肯定的評価の割合
全体	81.3% (▼7.3%)
1年	100% (今年度入学)
2年	88.4% (▼11.6%)
3年	71.9% (▼24.4%)
4年	82.9% (▼13.1%)
5年	96.7% (△8.5%)
6年	74.1 (△13.2%)







<今後に向けて>

木崎小学校では、今年度「自ら課題を見付け、主体的・協働的に学ぶ子どもの育成」を目指して、生活科・総合的な学習の時間を中心に学習活動を行っています。生活科や総合に限らず、友達と関わり合いながら主体的に学習を行うことは、学習内容の定着や学力向上にはとても大切です。

今回のアンケートの結果をみますと、「学習内容が分かっている」に対する結果評価では、保護者の評価で88.2%、児童の評価で国語93.0%、算数89.8%と、昨年度同様の高い評価が得られました。学年に応じた『学びのスキル』を各教室に掲示して、論理的な表現を通して学びが深まる指導の工夫をしていますが、話し合い活動を設けることが難しい場面もあり、学びのスキルを使うことで学習内容がよく分かったと感じる児童が77.1%にとどまりました。9月から話し合い場面において積極的に活用していく予定です。

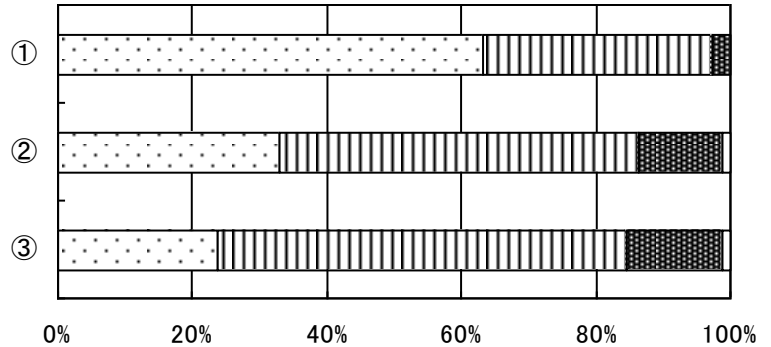
家庭学習については、毎日帰りの会の10分間を「ステップアップタイム」として、全校で家庭学習の計画を自分で立て、スムーズに家庭学習に取り組めるように働きかけています。81.3%の児童が自分で計画を立てて家庭学習に取り組んでいます。家庭学習に取り組むよう、声掛けや確認をしてくださっているご家庭は78.1%でした。「学年×10分」の家庭学習の目安の時間を達成している児童は、全校で81.3%と昨年度より少し下がっているものの、下学年ではほとんどの児童が達成しています。上学年になるに連れ、家庭学習の時間も長くなります。9月に家庭学習の取り組み方について再始動を行いました。継続した家庭学習に取り組めるよう、引き続き指導していきたいと考えています。ご家庭でもお子さんの家庭学習の取組について声掛けや確認をしていただき、お子さんの成長を一緒に見守っていただけますよう、今後ともご協力よろしくお願ひいたします。

2【自立&支持的風土】 子ども一人一人を多面的に理解し、子どもに良さを伝えることで自己肯定感を高めるとともに、子どもとの信頼関係を築くことを重点目標として取り組んでいます。

グラフの見方  そう思う  まあそう思う  あまり思わない  そう思わない
 「そう思う」と「まあそう思う」を肯定的評価として捉えています。

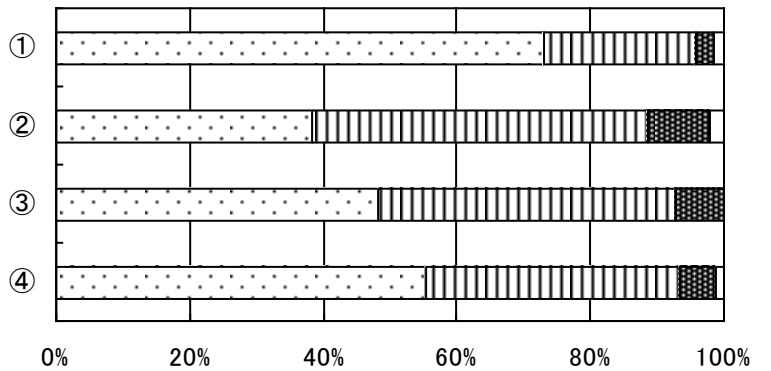
<保護者意識調査>

項目	肯定的評価の割合
① 学校に行くのが楽しそうである。	97.3%
② 家族や地域の方にあいさつをしている。	86.4%
③ 周りの人のことも考えて行動している。	84.5%



<子どもアンケート>

項目	肯定的評価の割合
① 学校は楽しい。	95.8%
② 自分にはよいところがあると思う。	88.7%
③ 自分のことだけでなく、周りの人のことも考えて行動している。	92.8%
④ お互いのよさを認め合っている。	93.5%



<今後に向けて>





「学校が楽しい」については、児童が95.8%（令和2年度96.6%）、保護者が97.3%（令和2年度94.9%）の肯定的評価をしていて高い割合です。学校生活が充実している様子が数値から読み取れます。

「あいさつ」については、保護者の肯定的評価が86.4%（令和2年度86.6%）とほぼ変わらず、家庭・地域でも「あいさつ」が身に付いていることがうかがえます。引き続き、家庭・地域・学校が連携・協力して取り組んでいければと思います。

「自分にはよいところがあると思いますか」については、児童の肯定的評価が88.7%（令和2年度86.9%）です。自己肯定感（自信）は、学習面でも生活面でも重要な要素です。学校では、様々な場面で子どもを褒め、認める指導を行っています。今後もさらに自己肯定感（自信）を高める指導を実施していきます。





「周りの人のことも考えて行動しています」の肯定的評価は、児童が92.8%（令和2年度94.4%、令和元年度92.2%、平成30年度91.7%）、保護者が84.5%（令和2年度83.4%、令和元年度79.3%、平成30年度77.2%）です。「お互いのよさを認め合っているか」については、児童の肯定的評価が93.5%と高い評価になっています。思いやりの心を育てることを目標に指導している成果が表れています。

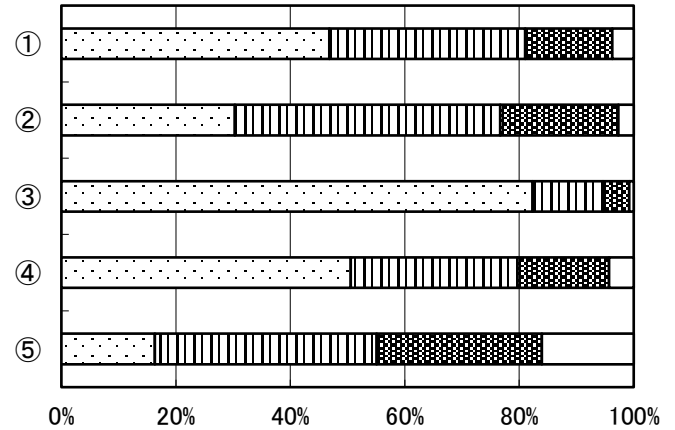
3【体づくり】 食育の充実や生活習慣の改善，体力の向上について重点的に取り組んでいます。

グラフの見方  そう思う  まあそう思う  あまり思わない  そう思わない
 「そう思う」と「まあそう思う」を肯定的評価として捉えています。

<保護者意識調査>





項目	肯定的評価の割合
①進んで体を動かして遊んだり運動したりしている。	81.0%
②食事に関心をもち、残さず食べようと心がけている。	76.6%
③毎日朝食を食べている。	94.6%
④登校時間の1時間前までに起床している。	79.6%
⑤平日のテレビやゲームの時間。	55.0% (1時間以内～2時間の範囲)

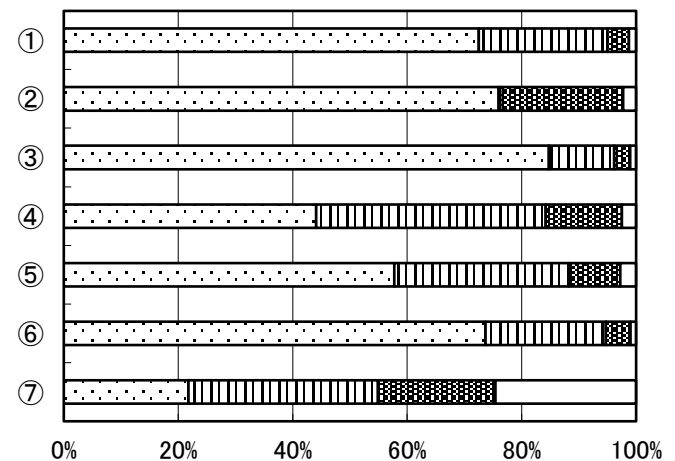
⑤は、 1時間以内  1～2時間  2～3時間  3時間以上



<子どもアンケート>

項目	肯定的評価の割合
①体を動かして遊んだり運動したりすることは楽しい。	95.0%
②給食を好き嫌いせず、残さず食べている。	76.2%
③朝食は、毎日食べている。	97.1%
④食の学習を生活にいかしている。	84.2%
⑤家を出る1時間前に起きている。	88.2%
⑥朝晩、歯磨きをしている。	94.7%
⑦平日、テレビやゲームの時間。	54.8%

⑦は、 1時間以内  1～2時間  2～3時間  3時間以上



<今後に向けて>

今年度の重点目標である食に関する「食の学習を生活に生かしている」という項目では、児童のアンケートでは、88.2%と学習したことを実生活で生かそうとしている様子が見えてきます。しかし、食事を好き嫌いせず食べるに関する項目では、肯定的な評価をした児童が76.2%、保護者が76.6%でした。児童は、(令和2年度92.2%令和元年度88.1%)だったことから、食は健康・栄養面で大切だということは分かっているが、行動として現れていないことが分かります。今後も、継続して食の大切さを伝え、きざキッズすこやか週間を通して、保護者と協力しながら意識して取り組んでいきたいと思ひます。

メディアに関する事項では、肯定的な評価をした児童が54.8%、保護者が55.0%となり、メディアとの関わり方に苦戦しています。一律にメディアから引き離すのではなく、デジタルとうまくつき合う方法を学校と家庭で協力してトレーニングしていくことが大切だと考えています。自己管理能力を養うための機会だと考え、「ゲーム時間の管理ができないと勉強できないよね」「家で決めたルールは守る」など引き続き指導していきたく思ひます。

運動の楽しさに関わる事項では、肯定的な評価をした児童が95.0%と高評価でした。これからも体育の時間に様々な運動を取り入れ、運動の楽しさを感じることができるよう努めていきます。